



2011年10月2日

いま起きつつあること…

田老ボランティア報告

関係作りから
ボランティア

「3・11いわて教会ネットワー
ーク」という被災者支援の働
きがあります。このネットワー
ークの責任を負つておられる

玉井幸男先生が時間をかけて
丁寧なかかわりを築いてくだ
さり、8月1日から4日まで、
中会の有志3名がこのネット
ワークに参加しました。当
日だけでなく、それまでの関
係作りを大切にしてくださつ
て実現したボランティアです。
そのような生身の関りはボラ
ンティアの中でも大切にされ
ていた」とでした。

大堤防を
破壊した津波

近藤愛哉牧師（盛岡聖書バブ
テスト教会）は、私事ですが
学生時代の友人で、3月11日
からフェイスブックで被災地
の情報を発信し続けておられ
ました。

関わりの中で仕え
痛みを共有する

盛岡から東に100キロほど
進むと、津波の被害を受け
た宮古市にたどり着きます。
近藤先生は震災直後から宮古
での支援活動を続けておられ
ました。その働きに私たちの
感動を持つものでした。堤防

伊能悠貴中会神学生、米山
美恵子姉（高座教会）と共に
参りましたが、今回は宮古の
北にあります田老町での働き
が中心でした。

田老町には巨大な堤防があ
ります。1933年の三陸津
波の際、村559戸中500
戸が流失し、その後、高さ10
メートルの大堤防を築いたの
です。しかし、今回の津波は
その予測をはるかに超える破
壊力をもつものでした。堤防

に守られた町は安全、そう信
じて津波を見に堤防まで行つ
た人が何人もいたそうです。
しかし、3月11日の津波は大
堤防そのものを破壊し、町を
飲み込みました。

津波だけではなく、火事も
起こり、家を焼失した人もい
ます。津波の被害を免れた、
少し山間に上がったところに
居を構えていたお年寄りとも
出会いました。地震が起こり、
小学生たちが家の前を通つて
避難して行きました。ポツリ
と「おつかながつたよ」とお
っしゃいました。

（この段落の「内は『クリ
スチヤン新聞』9月4日号の
近藤愛哉牧師の記事より引用
(さがみ野教会牧師・宮井岳彦)

（）に書ききれない多くの
話を伺いました。どれもこの
働きが大切にしている関係作
りの中で少しずつ聞かせてく
ださつた」とです。

このネットワークではお米
や調味料を在宅被災者に配る
働きなどを通して、ひたすら

